

正しい祈り

キー・ヴァース「こう祈りなさい：天にいます私たちの父よ、あなたの御名が聖なるものとされますように。」

マタイによる福音書6章9節

厳選された聖典
マタイ6:5-15

イエスが「ある場所で祈り」終えられた後、弟子が「主よ、私たちに祈りを教えてください」と尋ねた。(ルカ11:1-

4)。この弟子がこの質問をしたとき、それまで祈ったことがなかったと考えるべきではない。しかし、弟子たちは、イエスの教えが律法学者やファリサイ派の教えとさまざまな点でかなり異なっているだけでなく、祈りの仕方も異なっていることに気づいていたようだ。それゆえ、弟子たちはイエスの祈りに関する教えを得たいと願ったのである。

祈りに関するイエスの教えは、ルカとマタイの福音書に記されている。(ルカ11:1-13、マタイ6:5-15)。私たちは、
、イエスが祈るときに自分の言葉をそのまま繰り返せということではなく、むしろ "こう祈りなさい"と言われたのだと理解しなければならない。言い換えれば、イエスは私たちに正確な言葉を与えたのではなく、私たちの祈りのスタイルと内容の一般的な例を示したのである。ですから、どの祈りでも同じ形式的な言葉を繰り返したり、長い祈りを捧げることで聞いている人に感銘を与えたり、天の父により受け入れられやすくなると考えたりすることは避けるべきです。マタイ6:7

"天におられる私たちの父"(9節)。私たちの父"という表現は、ユダヤ人にとっては新鮮なものであったろう。(エズラ5:11、"ニーハオミーヤ"1:6)。しかし新約聖書では、使徒はイエスを受け入れたユダヤ人について、「彼らに神の子となる力(ギリシャ語では特権)を与えた。(ヨハネ1:12)。「あなたの御名が聖なるものとされますように」とは、神のいつくしみと偉大さに対する敬虔な崇敬と感謝を表している。祈りにおける私たちの最初の

思いは、神に向けられるべきであり、私たち自身や私たちにとって大切な人に向けられるべきではありません。

"御国が早く来ますように。"(マタイ6:10)。神の御国は、全人類を祝福し、現世のあらゆる問題、悩み、悪を解決する永遠の解決策になると約束されている。この王国への希望は、すべての人が祝福される時が来るという展望を思い描きながら、今日の試練や困難を乗り越える助けとなるだろう。

"御心が天にありますように、地にもなされますように"。私たちは、神がその多くの約束のすべてを果たしてくださるという信頼を表明すべきである。"今日、私たちに必要な食物をお与えください。"(11節)。私たちは、霊的なことに関しても、一時的なことに関しても、日常生活における神の摂理的な配慮と指示を受け入れ、神に絶えず依存していることを認めるべきです。

「私たちに罪を犯した者を私たちが赦したように、私たちの罪を赦してください。(12節)。私たちはしばしば神の完全な基準に達しないことがあるので

、祈りの中で神の憐れみと憐れみを必要としていることを表明し、救い主の功德による赦しを求め、変わりたいという願いを表明すべきなのです。私たちはまた、天の父に、私たちに対して罪を犯すかもしれない他の人たちに対する憐れみを育むことができるように助けてくださるようお願いしなければなりません。マタイ5:44

"私たちを誘惑に屈せず、悪から救い出してください。"(マタイ6:13)。私たちが耐えることができないような試練が私たちの上に來ることがないように、神が私たちの人生の歩みを導いてくださるように、また、私たちの成長のために神が許してくださる試練から私たちが学ぶことができるように、神に願い求めるべきである。(1コリント10:13; ローマ8:28)。このように、神に喜ばれるためにイエスが私たちに与えてくださった祈りの作法は、私たちが心から神のみこころを行ないたいという願いを神に表すことである。エペソ6:6